



充実した学園生活のなかで、日々成長中!!



鈴鹿安全運転講習

自動車整備科・一級自動車研究開発学科の1年生を対象に、三重県鈴鹿サーキットの「交通教育センター」にて安全運転講習を実施しました。この講習の目的は自動車業界で活躍していくための安全運転意識を高めることや、団体行動を通じて協調性を養うことももちろん、Hondaの社内資格であるセーフティコーディネーター・ライディングアドバイザーの資格を取得することです。就職後にお客様へ技術と心構えの両面からの確かなアドバイスが出来るよう、しっかりと学びます。

実際に安全運転をするための基礎技術を勉強することももちろん、濡れた路面で急ブレーキを踏み、ABSが効いたクルマがどのように制御できるか、普段の運転では経験できない体験をさせて頂きました。クルマもバイクも移動する喜びを提供できるモビリティですが、誤った使い方をすると、自分も周囲も不幸になる危険性を秘めています。身につけた技術と知識をしっかりと自分のものにして、安全運転に努めていきましょう。



賛助会セミナー

1月13日・14日に一級自動車研究開発学科3年、自動車整備科1年、自動車整備留学科2年を対象に賛助会企業セミナーを実施しました。オンラインも含め、本校を支援して頂いている数多くの企業の採用ご担当者様に直接会社説明を行って頂ける貴重な機会です。当日は会社紹介をはじめ、業界全体の話や先輩整備士との懇談なども行って頂き、学生たちは積極的に質問をしたりメモをとったりと真剣に話を伺っていました。

自らの夢の実現に繋がる納得のいく就職が出来るよう、頑張ってくださいませ。



ハイブリッド(電動化)技術講話を行いました

12月21日にハイブリッド(電動化)技術講話を実施しました。オンラインでの実施となりましたが、Hondaの四輪事業本部パワーユニット開発統括部の阿部様、島田様にご登壇頂き、Hondaのモノづくりへの想い、環境への取り組み、なぜハイブリッドは燃費が向上するのか、VEZELのPCUの構造、燃料電池の原理など、分かりやすく電動化技術について教えて頂きました。

時に頷き、しっかりメモをとりながら説明を聞く学生たち。どんな技術でこれからの未来を創っていくか、その為に学生の今、どう学んでいくか。自分事として考えるきっかけとなりました。



トップセミナー

2月14日に本田技術研究所の津社社長から「2050年カーボンニュートラルと事故ゼロに向けたHondaの取り組みと未来づくり」の講話をオンラインで実施して頂きました。コロナ禍での開催でオンラインとなりましたが、本田技術研究所の現役社長の講話とあって、学生たちは熱心に聞き入り、メモをとっておりました。また、学生からの質問に対し、丁寧に受け答えしていただき、誠にありがとうございました。Hondaの自動車大学校でしかできない、「トップセミナー」。Hondaが描く未来社会への展望が聞け、大変貴重な機会となりました。

最後に学生に向けて、「不可能は無い。不可能があるとするなら、諦めているだけだ!」というとても強いメッセージ、ありがとうございました。



開発科特集

学生フォーミュラ 日本大会

21位と歴代最高位獲得!

今年の車両開発のコンセプトは「ドライバーが求める走りの特性に変えることができる車」。これまでの先輩の車両にはない車を創りたいという想いから、これまで取り入れたことのない技術を搭載し、ドライバーが思う存分に運転を楽しめる車を目指しました。

基本性能の向上を図ることはもちろん、こだわったのはこれまでの車両にはない新技術として各種可変機構を搭載したことです。

日本大会はオンラインでの静的審査のみとなりましたが、61チーム中21位を獲得。「わくわくする車だ」との講評を頂きました。

また、動的審査の代替イベントである公式記録会でも全競技完走することが出来ました。



チームリーダーを務めた下前さんは「目指す姿を全体で共有し、積極的に意見交換や製作に打ち込むことで全体がまとまり、チームとしての拘りの詰まった車両を創り上げることが出来た」と振り返ります。今辻さんも「いかに効率よく時間を使い、自分の担当部品はもちろん車両全体を仕上げていくかというところに腐心した」と語ってくれました。「誰が、何を、いつまでにやるか」ということを決め、みんなで共有し、報・連・相を元に相互に補完しあうことを学んだと森さんも言います。そして口をそろえて、達成感・感動を感じることが出来たと話してくれました。

モノづくりに真剣に向き合い、困難を乗り越えて創り上げた経験を、社会人としてそれぞれの場所で活かしていきます。

チーム一丸となって仕上げた

歴代最高位獲得車のこだわり!

■可変機構■

- ・可変吸気管長システム(エンジン性能を最大限に引き出せる)
- ・四輪操舵システム(旋回性能を変えられる)
- ・電気式可変ダンパー(サスペンションのストローク特性をかえられる)

可変機構を一番体感しやすいのは四輪操舵システムです。モードを切り替える事で旋回性能や安定性が変わるので挙動の変化として感じることができます。(今辻さん)

サスペンションの調整機構として二輪用のエアサスペンションを活用し、他の可変機構と組み合わせることでセッティングの幅が広く走りを楽しめます。(下前さん)



流れをイメージさせるような曲線を多用し、可変機構などの車としての機能+αのものが多く搭載されていることから、カウルは他の部品を目立たせるようにシンプルにしています。(森さん)



新任

4月	LE KHA TUAN	学務室	(入社)
9月	後藤 俊介	自動車整備科	(Honda 四輪事業本部)
10月	有村 大樹	一級自動車研究開発学科	(Honda 日本本部)
1月	森林 秀朗	自動車整備科	(入社)
2月	海野 貴裕	自動車整備科	(Honda 鈴鹿製作所)
3月	石川 剛	自動車整備科	(ホンダモーターサイクルジャパン)

Welcome!

異動・退職

4月	泉田 泰行	Honda 四輪事業本部
	渡邊 英俊	退職
5月	中山 透	退職
6月	杉原 百合子	退職
11月	橋 裕	退職

Thank you!

(自動車研究開発科)
(一級自動車研究開発学科)
(自動車整備科)
(自動車整備留学科)
(教務部)

※()は異動前所属名称

日々のNews 公開中!!

学園での日常生活や、学生の様子など様々な記事を掲載しています。



ここからアクセス!